

# 全科協ニュース

Japanese Council of Science Museums Newsletter

URL [http:// www.kahaku. go. jp/JCSM/index. html](http://www.kahaku.go.jp/JCSM/index.html)

全国科学博物館協議会 東京都台東区上野公園 国立科学博物館 ☎110 Tel.5814-9857・9858 Fax.5814-9898 平成8年7月15日発行(通巻第149号)

## 特集 親しまれる科学館を目指して

### 多摩六都科学館

#### 1. はじめに

多摩六都科学館は、東京都のほぼ中央にあって、多摩地域の北部、都心からおよそ25km圏に位置し、所在地は田無市にあります。

施設は、小平市、東村山市、田無市、保谷市、清瀬市、東久留米市の六市が共同で設置したもので、この六市全体の人口は約65万4千人、面積は76.58km<sup>2</sup>、小・中学校は130校となっています。

施設の目的は、子どもたちの創造性を育み、科学の心を養い、各世代の人たちの教養を高める等、文化の向上を図っていくことを目指しています。

オープンは、平成6年(1994年)3月で、今年で3年目を迎えています。

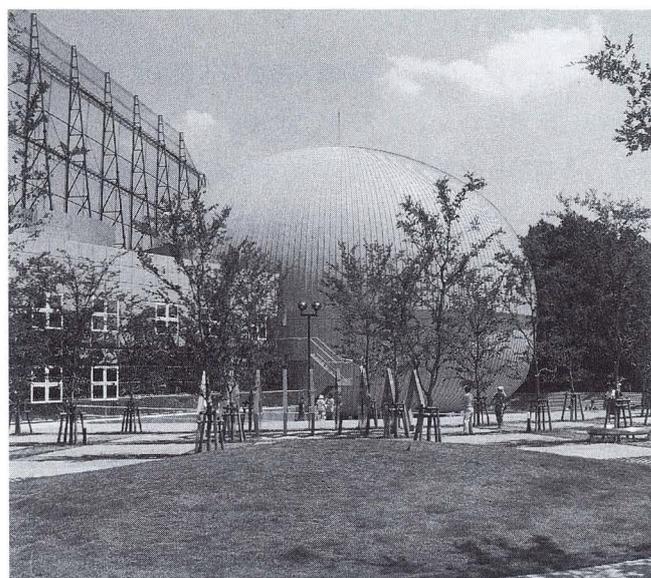
#### ○施設の概要

##### \* 建物等

敷地面積 11,084m<sup>2</sup>

建築面積 3,269m<sup>2</sup>

構造 鉄筋コンクリート・一部鉄骨造り



施設のシンボルとなっているメロンドーム

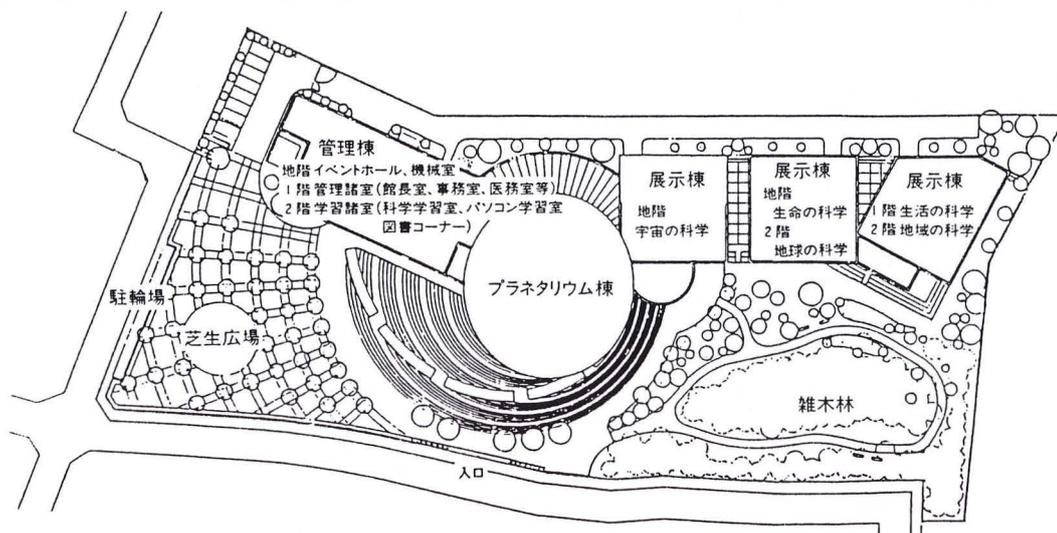
地上3階、地下2階

延床面積 6,498m<sup>2</sup>

うち展示室面積 2,068m<sup>2</sup>

ドーム棟面積 973m<sup>2</sup>

学習室面積 267m<sup>2</sup>



多摩六都科学館敷地内配置図

## \* 展 示

来館者との対話がより深められ、科学に親しみがもてるよう、体験型の展示に主眼をおいています。また、実物展示、実物大模型展示、縮尺模型等も多く取り入れ、最近の科学技術をまぢかに観察し、体験できるよう工夫しています。

展示室は“宇宙・生命・生活・地域・地球の科学”の五つの部門から構成し、展示物107点を展示しています。

## \* プラネタリウム

ドームは傾斜型で直径27.5mの世界最大級の規模となっており、座席数は254席で全席にレスポンス・アナライザーを設置しています。

プラネタリウムは、25,000個の恒星を投影する本体機と、3台のビデオプロジェクター、この他、スライド・映画フィルムを利用した投影や色彩投光等の各種補助投影機から構成し、テーマ番組やライブによる投影の演出効果を高めています。

## \* 全天周映画

プラネタリウムのドームスクリーンに70mm映画を上映しています。映写機は70mmフィルム15pサイズでプラネタリウムと同期映写ができ、従来機に比べ、光量増が図られたもので、臨場感あふれた迫力ある映像を映しだしています。



傾斜型のスクリーン・観覧席でゆったりと

## \* 学習室

科学教室では、実験台12台を用意し、顕微鏡や、CCDビデオカメラ、大型モニター等を備え、科学実験や工作の講座を開いています。

また、パソコン教室は、20台のパソコンにより実習ができるようにしています。

図書コーナーは、幼児、小・中学生、専門の分野に分け、自然・科学・化学・天文等の書籍を開架しています。

## 2. 設置の経緯

六市で共同設置してきた経緯は、元々これらの市は同じような都市的性格をもっており、地理的或いは歴史的にも非常につながりのある地域であったこと等から、共通した行政課題は複数の自治体が広域的に共同で処理した方が、より効率的に解決できるとして、これまでもいくつかの問題解決に取り組んできました。

とりわけ、広域的な大規模公共施設が乏しかったことから、こうした公共施設の誘致等に連携し、取り組んできました。

その一つに、科学館設置があったもので、次第に早期実現への気運が高まり、全国的にも文化施設として珍しい、広域的規模の共同設置へと結びついたものであります。

こうして、多摩六都科学館が誕生したわけですが、広域的に共同で運営し、科学館としての独自の機能を発揮させていくには、構成市を基に独立した組織とする必要がありました。このため、地方自治法に基づいた「一部事務組合」とし、特別地方公共団体としての性格を有しています。科学館の管理や運営に関し、事務処理する範囲内では、市町村と同じ機能をもっています。

## 3. 運営の体制等

事務局は、六市からそれぞれ一定年限で派遣された職員と、館の固有職員とで構成しており、全員が事務職です。

事業の運営では、館で事業の企画立案等をし、それに基づいて、展示の案内、プラネタリウムの投影・解説、全天周映画の上映、教室等の実施を民間に業務委託しています。

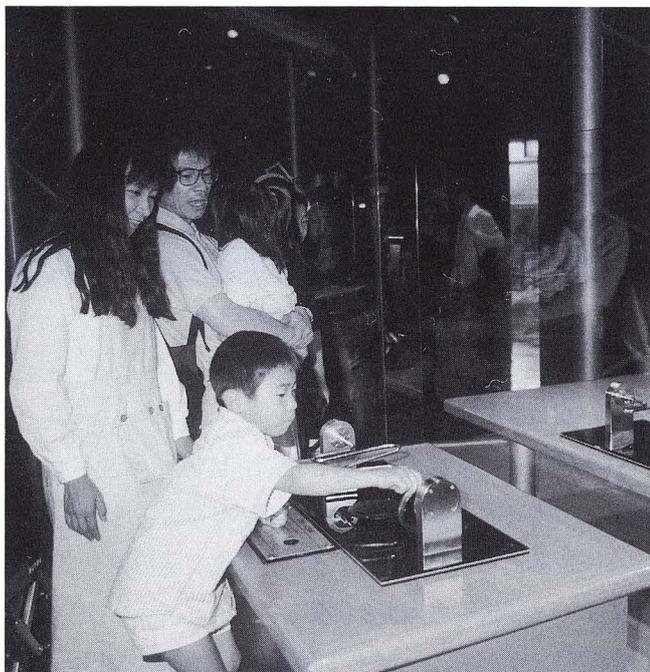
また、一般的に博物館等協議会を設置し、運営に関する諮問や意見を聴取していますが、多摩六都科学館では、これに替わるものとして、構成する六市の市担当責任者の会議・市長構成による理事会・各市議会から選出された議員による組合議会が構成されています。これらの会議は、それぞれ年数回開かれ、運営に関わる全ての事項について審議し、最終的に組合議会で議決され、事業運営がされています。

4. 興味、関心を引く事業の取り組み

(1) 展 示

展示に直接触れ、操作し、体験しながら理解してもらうよう参加体験型の展示をできる限り多く取り入れ、工夫してきました。特に関心が高いスペースシャトル・シアターは、映像と音響にボディソニックを加え、宇宙旅行の疑似体験ができます。ムーン・ウォーカーでは、上下運動とさらに左右の方向性をもたせ、月面重力の疑似体験等を味わってもらっています。この他、ゲーム感覚で興味を引くことや、子どもの眼で見ることを意識した配置とする等、来館者に楽しく面白く科学に親しんでもらっています。

また、展示操作方法の説明や質問の対応にコンパニオンをあたらせていますが、来館者の気持ちになった対応ができるよう日々研修に努めています。



ゲーム感覚でロボットに挑戦

(2) プラネタリウム

ライブについては、四季折々の星空、星座の投影やそれに関わる伝説、さらに随時、関係するトピックス等を取りあげています。また、できる限り観覧者との触れ合いをもたせ、年齢層や雰囲気合わせた解説に努めており、レスポンス・アナライザーによる観覧者への問いかけはプラネタリウムを身近に感じさせる手段として効果を上げています。

テーマ番組については、年4回入れ替えています。内容がとかく専門的に偏りやすいことから、対象者を幅広く

捉え、各年齢層に判りやすく、夢や感動が与えられるような番組制作を目指しています。

学習番組については、小学5・6年生、中学1年生を対象として、学習指導要領に準拠した番組ソフトにより投影していますが、観覧の都度、事前に担当教員と打ち合わせをしており、授業に合わせた投影及び解説により学習効果を上げています。

(3) 全天周映画

作品は、年2回入れ替えています。作品選定にあたっては、対象者を幅広く捉え、判りやすく、夢や感動を与え、かつ娯楽性が加味されているものとしています。

これまでの上映作品は、近隣館との競合がなく、できる限り新しく迫力ある作品を求めてきたことから、館に対する好感なイメージ作りがされてきました。これからもこうしたイメージを継続し、リピーター等への信用を得ていくことが大事と考えています。

なお、プラネタリウムについても同様ですが、次回作をできる限り早期に決め、通常の上映等に併せ、作品紹介をしており、リピーター確保に努めています。

過去の上映作品

- グレート・シャークス
- アフリカ・セレンゲティ
- ジャーニー・インサイド
- ザイオン・キャニオン
- リビング・シー

プラネタリウム・

全天周映画の観覧者数（7年度）

観覧内容	観覧者数
プラネタリウム	75,241
全天周映画	34,394
計	109,635

(4) 学習室

主な教室関係は、次のとおりですが、各教室は、基礎的な概念の習得を基本とし、参加者を広く求め、気軽に参加でき、科学への関心が深まるよう講座を編成しています。

① 科学実験教室

小・中学生を対象とし、疑問の追求や解決により実験の



酸性・アルカリ性の実験教室風景

面白さが味わえ、また、科学が楽しく理解できるよう、しかも学校と競合しない内容を取りあげています。

男女とも違和感のない内容に心掛けていますが、女子の参加者が多くみられます。

#### 主な教室内容

- 顕微鏡でミクロの世界をのぞこう
- 真空の世界を楽しもう
- 超低温の世界を知ろう
- 酸性・アルカリ性の実験
- おやつは何でできているの？
- 乾電池を分解して仕組みを調べよう
- “光”って曲がるの？
- うず巻実験～空気の輪～
- ひんやりドライアイスの実験

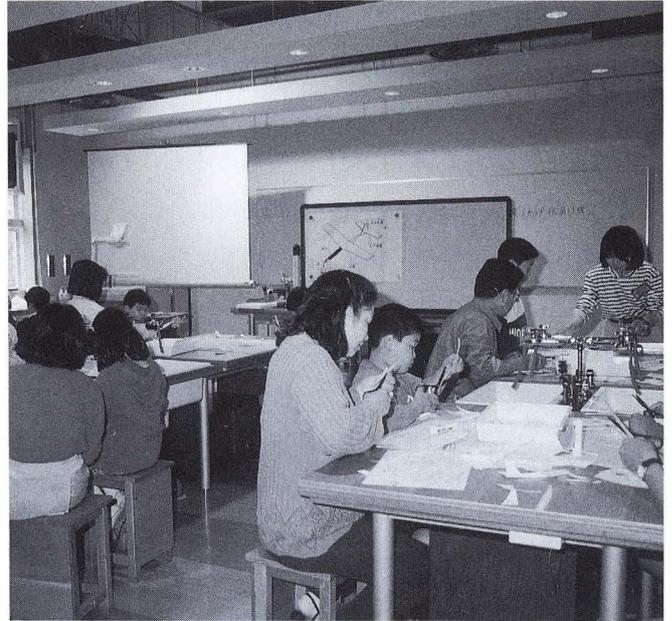
## ② 科学工作教室

小学生を対象として、試行錯誤の体験や忍耐及び創造性等、身につくような内容を取りあげています。

特に小学生の低学年に重きを置いています。これは親子等保護者との参加を基本とし、参加者からは、家庭等での親子対話が一層深まってきた、また、参加した母親等が近所の口コミPRに一役買っている等の話題も入手しており、入館者増に期待しています。

#### 主な教室内容

- 紙飛行機づくり
- 竹とんぼづくり
- ソーラーカーづくり
- 望遠鏡づくり
- リンリンベルづくり
- 懐中電灯づくり
- ミニライトづくり



竹とんぼづくり教室風景

## ③ パソコン教室

基本的な操作を覚えながら、機器類に慣れ、パソコンに親しんでもらう。また、簡単な文書の作成や絵を描く等によって、基礎を習得してもらう。さらに、表計算ソフトによるデータ解析等の初歩を学習してもらっています。

教室は、子ども、一般等の各対象と内容別に分け、小学4年生以下は保護者同伴としています。参加者は、親子や主婦が多く見られますが、広範な年齢層に及んでおり、今日の社会情勢を反映し、大変盛況で、一般教室は子どもに混じって、高齢者が真剣なまなざしで取り組む姿に敬服しています。

現在、専門講師による若干上級のコースを取り入れていますが、参加者は、さらに上級コースを望んでおり、こうした希望に合った教室、参加しやすい日程等、内容の充実に取り組んでいます。

#### 主な教室内容

- はじめてのパソコン教室



パソコンで絵を描こうの教室風景

パソコンで絵を描こう

パソコンで文章を書こう

「ロゴ」入門コース～アニメをつくろう～

スキャナーを使ってみよう

表計算ソフトって何だろう

#### ④ 講演会

科学に関する専門的な講師を招いて、関心の高いものや、時の話題となっているもの等を取りあげ、科学への関心や知識を高めるようにしています。

講演は、専門的にならず誰もが理解できるような内容で、できるだけ質問時間を多く取り、参加者の疑問に応じられるようにしています。

主な講演会

- ・シューメーカーレービー第9彗星の木星衝突について
- ・惑星への旅
- ・やさしい天文教室
  - 土星の環が消える
  - ロケットが見た惑星の世界
  - 星座早見盤の使い方
- ・梅雨はなぜあるの
- ・地震と断層～東京の断層は活動しているのか？
- ・雑木林とそこに生息する小動物たち
- ・昆虫ウォッチングと山に棲む動物のおもしろ生態のはなし

#### ⑤ 企画展示

マンネリ化した展示のイメージを取り払い、館に魅力や



からくりワンダーランドの体験風景

関心を呼び起こさせることをねらいとして、企画展示を一定期間開催しています。出展は、テーマに合わせ、なるべく的を絞りを、総花的にならないよう、また、疑問や好奇心、科学の素晴らしさが味わえ、老若男女とも楽しめる展示に努めています。

現在、開催時期は、夏休み期間中に限っていますが、さらに他の時期の開催、特に平日の利用層や利用人数等を検討し、入館者増につながるイベント開催に努めています。

- ・6年度企画展 10月22日～11月3日

「向井千秋さんの宇宙からのメッセージ展」

写真とビデオにより、宇宙飛行士「向井千秋さん」の訓練風景や宇宙へ旅した様子を紹介しました。

- ・7年度企画展 7月26日～8月10日

「ロボット展」

アニマドール、メカゴリラ、メカトリケラトプスなどのロボットを展示し、その構造を見せながら、コンピューターの使い方やその仕組みを紹介しました。

- ・8年度企画展 7月24日～8月18日

「からくりワンダーランド～君も挑戦しよう～」

ドアやダンス等の家具や小物を置き、そのからくり挑戦し、科学的な見方、その考え方を育てるとともに、自己教育力を高めることをねらいとしました。

#### 5. 広報宣伝の取り組み

##### (I) 一般への広報宣伝

多くの人に館の存在を知ってもらい、さらに館に目を向

けてもらうため、ポスター、パンフレット、その他印刷物を発行し、利用の案内・番組等の事業紹介をしています。

ポスターについては、番組入れ替え等に合わせ、バス車内及び鉄道駅への掲出をしています。特に夏期においては、電車内にも掲出しています。

その他、バス案内放送や、電柱・消火栓・駅舎への広告、野立て看板、新聞や雑誌等への広告によりPRしていますが、新聞広告は、ゴールデンウィークや春・夏休み、秋の行楽シーズンに合わせ掲載しています。

また、新聞・テレビ・ラジオのマスメディアには、定期的に事業案内の情報を提供しているほか、一定入館者数の達成記念式、話題的な事業実施等、イベントを積極的に展開し、取材記事の掲載機会を得るようにしています。

なお、インターネット・ホームページについては、目下、内部作成により開設の準備を進めています。

(2) 六市への広報宣伝

構成する六市の市民に十分利用してもらうことが、館の設置目的の一つであることから、繰り返し、館の存在や事業紹介をきめ細かに実施しています。

このため、市民に対しては、利用案内や各事業紹介を、構成市の広報紙に毎月掲載しており、さらに随時、必要に応じて大きく取りあげています。

また、ポスターやパンフレット類の印刷物の掲示、配布は、構成市の学校、公民館、図書館、地域センター等の公共施設を利用し、さらに官公署、病院、企業等の施設の協力も願っています。その他、既に利用した団体等に電話やパンフレット送付による案内等、リピーター確保に努めています。

団体利用状況（7年度）

団体名	団体数
小中学校（学習番組）	127
小中学校（一般利用）	37
幼稚園・保育園	16
学童保育・児童館	21
高校・大学	1
子供会・社会教育主催	57
福祉施設等	16
会社・団体	30
計	305

アンケート調査結果

実施期間	6・7・24～8・31						
実施期間中の入館者数	33,089人						
回収数（率）	3,440人（10.4%）						
性別	（男）	1,427人	41.5%	（女）	1,848人	53.7%	
				未記入	165人	4.8%	
回答年齢	0～6歳	117人	3.4%	31～40歳	557人	16.2%	
	7～12歳	1,308人	38.0%	41～50歳	247人	7.2%	
	13～15歳	233人	6.8%	51～60歳	47人	1.3%	
	16～18歳	75人	2.2%	61～64歳	24人	0.7%	
	19～22歳	254人	7.4%	65歳～	78人	2.3%	
	23～30歳	290人	8.4%	未記入	210人	6.1%	
地域別来館者	圏域 1,385人（40.3%）						
	小平	347人	25%	保谷	189人	14%	
	東村山	250人	18%	清瀬	72人	5%	
	田無	256人	18%	東久留米	271人	20%	
	都下 684人（19.9%）						
	小金井	101人		東大和	49人		
	武蔵野	96人		武蔵村山	46人		
	三鷹	49人		その他	343人		
	区部 528人（15.3%）						
	練馬	180人		中野	32人		
	杉並	81人		江戸川	25人		
	世田谷	37人		その他	173人		
都外（未記入含） 843人（24.5%）							
埼玉	398人		北海道	26人			
神奈川	121人		静岡	25人			
千葉	62人		その他	211人			
情報	市報	723人	21.0%	新聞	444人	12.9%	
	雑誌	593人	17.2%	テレビ	206人	6.0%	
	知人から聞く	489人	14.2%	その他	985人	28.7%	
交通手段	自動車	1,662人	48.3%	バス	365人	10.6%	
	*電車	609人	17.7%	徒歩	146人	4.3%	
	自転車	447人	13.0%	その他	211人	6.1%	
*電寄車	最寄	花小金井	436人	71.6%	ひばりが丘	18人	3.0%
		田無	62人	10.2%	吉祥寺	11人	1.8%
		武蔵小金井	24人	3.9%	その他	58人	9.5%
興味を持った展示物			意見				
ムーンウォーカー	394人		交通が不便				
スペースシャトルシアター	310人		カフェテリアのメニューが少ない等				
ジャイロ	48人		プラネタリウムの回数増を				
不思議な部屋	217人		案内表示を多く				
反射神経	149人		スペースシャトルシアターが待ち過ぎる				
食べ物の旅	114人		休憩コーナーの増を				
ロボットに挑戦	173人		体験展示物の増設を				
リニアモーターカー	125人		大変良く出来ている施設だ				
天然ガス探求船	92人		非常に参考になった				
雑木林の夏と秋	249人		職員が親切だ				
ゴミ処理システム	65人						
水道の水はどこからくるの	52人						
龍巻発生装置	196人						
地震と観測	134人						
地球を救え	98人						

## 6. 課題をふまえて

事業運営に係わる事務局職員の基本的な業務は、方針の提示、実施事業のチェック等で、事業の具体的実施については、業務委託方式を取っています。また、運営を統括する事務局は、館長・学芸員が未設置で、限られた人数等により、柔軟な体制で業務に臨んでいます。

こうした委託方式や学芸員の未設置は、調査研究、資料公開等において、館としての創造性や独自性が発揮できず、本来、科学館としての在り方が消極的に志向されているのでは、とのことには留意しているところです。

財政力の小さな市が構成していること等、組織体制や経費の効率の運用面からの考慮も必要で、将来にわたる運営を維持していくため、館が固有する運営体制等、特性を生かしながら、科学館のあるべき姿に近づけるべく委託職員共々、努力しています。

また、入館者実績の推移をみると、大変厳しい状況にあります。館では、毎年、動向を知るために来館者を対象としてアンケート調査を実施しています。この集計からは、事業内容や施設等の充実を図ること、交通の利便性を求める声も数多くみられます。

展示や事業内容、そして施設等の充実については、利用者の新規発掘やリピーターの確保等に影響します。展示更新時と併せた施設改善等の必要があります。このため、毎年、基金を積み立て、来るべき時期に備えていますが、現在、具体的取り組み段階に来ており、実績の反省に立った検討を重ねているところです。

交通アクセスの確保については、館としても大きな課題であります。中でも、駅間とを結んだバス網整備は悲願であり、バス運行の早期実現に積極的な取り組みをしています。

以上の外にも課題は山積していますが、魅力ある科学館づくりは、限りなく続く課題です。如何に多くの人たちの目を多摩六都科学館に向けさせるか、問題解決に向け、職員が一丸となって努力しています。

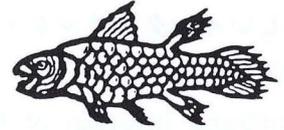
多摩六都科学館にご意見、ご批評を頂ければ幸いです。

(多摩六都科学館事業課 多々井宏彰)

美術

# はく製

〈各種生物〉  
剥製・骨格標本・レプリカ  
加工/販売/リース



有限会社 東洋近代美術研究所

製作所 〒272 千葉県市川市本北方2-18-1 直通 ☎0473-37-5678  
☎0473-37-5883  
FAX 0473-38-1978  
本社 〒272 千葉県市川市国分5-3-25 ☎0473-74-1564



## COLORATA

Venture Into The Past The Living Earth Communication For The Future

ミュージアムグッズの企画・デザイン

カラータ株 〒111 東京都台東区浅草橋4-6-8 西澤ビル3F  
TEL 03-3865-8110 FAX 03-3864-4049

# 感動環境 創造会社です。

## NOMURA

株式会社 乃村工芸社

本社: 東京都港区芝浦4-6-4・電話03-3455-1171(代) 〒108

営業種目/ディスプレイおよび建築の調査・コンサルティ  
ング・企画・設計・デザイン・プロデュース・演出・制作施工

## 海外ニュース

安井 亮 (ハイフォン)

## 新しいインターネット・ホームページの開設動向

## &lt;アメリカ&gt;

Children's Museum of Indianapolis (Indianapolis)

<http://www.ci.com/children/home/html>

DNA Learning Center (Cold Springs Harbor, NY)

<http://darwin.cshl.org/>

Fernbank Museum of Natural History (Atlanta, GA)

<http://stlbbg.gtri.gatech.edu/>

Hall of Health (Berkeley, CA)

<http://www.dnai.com/~hohealth/>

Volcano World (North Dakota)

<http://volcano.und.nodak.edu/>

## &lt;イギリス&gt;

Museum of the History of Science (Oxford)

<http://units.ox.ac.uk/departments/hooke/>

National Museum of Photography Film &amp; Television

<http://www.nmsi.ac.uk/nmpft/>

## &lt;オーストラリア&gt;

Science Centre (Wollongong)

<http://www.uow.edu.au/public/science-centre/>

Scienceworks (Melbourne)

<http://www.vic.gov.au/sw.html>

## &lt;カナダ&gt;

Children's Museum (Hull, Quebec)

<http://www.cmcc.muse.digital.ca/cmcc/cmcceng>

Earth Sciences Museum (Waterloo, Ontario)

<http://www.science.uwaterloo.ca/earth/museum>

Manitoba Museum of Man and Nature (Manitoba)

<http://www.mbnet.mb.ca/ManitobaMuseum>

## &lt;スイス&gt;

Natural History Museum (Berne)

<http://www-nmbe.unibe.ch/>

## &lt;スウェーデン&gt;

Ekomuseum Bergslagen (Smedjebacken)

<http://www.ludvika.se/ekomuseum/>

Experimentum Science Museum (Goteborg)

<http://www.westnet.se/tourist/sights/museums>

## &lt;ドイツ&gt;

Museum fuer Technik und Verkehr (Berlin)

<http://GN.Update.UU.SE:70/0/chp/org/eu/de/mvtb>

Porsche Museum (Stuttgart)

<http://192.253.114.31/Stuttgart/Porsche>

Siemens Museum (Munich)

<http://www.sietec.de/arc/sieforum/sieforum.en>

## &lt;フィンランド&gt;

Science Center Tietomaa

<http://www.ouka.fi/tietomaa-e.html>

Finnish Museum of Natural History (Helsinki)

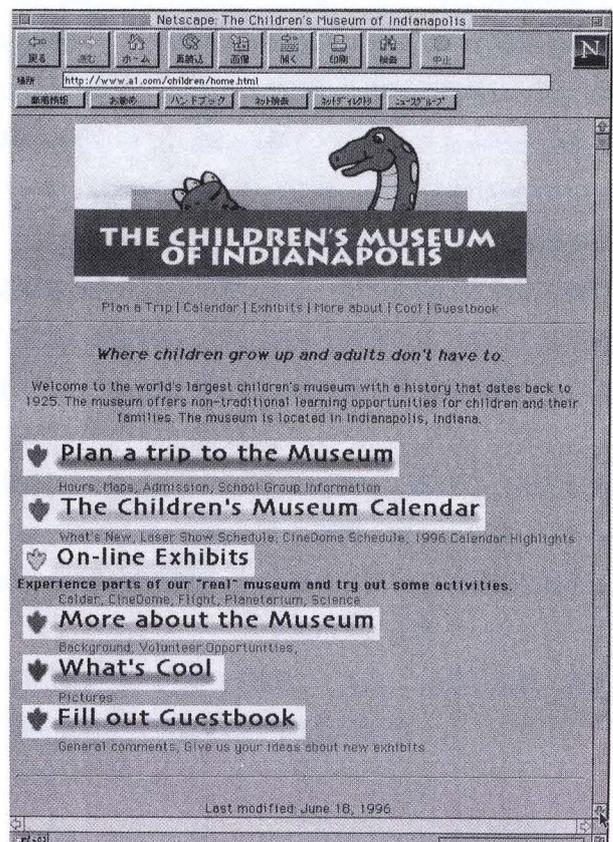
<http://www.helsinki.fi/kmus/>

## &lt;フランス&gt;

Muséum National d'Histoire Naturelle (Paris)

<http://www.mnhn.fr>

Palais de la Decouverte (Paris)

<http://www.paris.org.:80/Musees/Decouverte>

\*ハイフォン : Fax. 03-3496-2146

E-mail. QFH03327@niftyserve.or.jp

## —全科協情報—

### 平成8年度第1回理事会・総会終了

平成8年6月26日(水)に国立科学博物館分館において、平成8年度第1回全科協理事会・総会が開催されました。

総会出席館は80館、委任状提出館104館で、平成7年度の事業報告及び収支決算報告が承認されました。また、平成8年度事業計画の実施について審議・了承されました。

なお、主な議題は下記のとおりです。

- ・平成7年度事業報告
- ・平成7年度収支決算報告
- ・平成8・9年度役員館園の選出について
- ・平成8年度事業計画
- ・第1回世界科学館会議概要

議事終了後、文部省委嘱事業「公開天文台情報の活用に関する調査研究事業」の成果について、国立科学博物館理工学研究部洞口俊博研究官から報告があった。

また、引き続き、国立天文台企画調整主幹・教授 観山正見氏によって『太陽系外の惑星探査と惑星系の形成』と題して記念講演が行われ、その後懇親会場に場所を移して情報交換が行われました。

翌日の6月27日(木)には4月に展示更新を行った科学技術館を視察し、全日程を終了しました。

### 科学系博物館における標本資料のデータベースの標準化に関する調査研究委員会の設置

標記委員会は全国の科学系博物館の標本資料データベースの標準化について調査研究を行うことを目的として設置されたものです。その第1回委員会が平成8年6月26日(水)に国立科学博物館分館で行われました。議事に先立ち、各委員の紹介が行われ、本委員会の座長の選出を行い、松浦委員(国立科学博物館)が座長に選任されました。

松浦座長より本委員会の調査研究方針、概略説明が行われ、その内容は下記のとおりです。

- ・本委員会で、必要最低限のデータベースモデルを作成する必要がある。
- ・データベース化のガイドラインを示すことにより、多くの館(園)に有益なものとする。

・今年度は、各館(園)のデータベース化の現状とデータベースシステムのコード体系の調査を優先的に行う。

討議の中では、

- ・データベースの現状をどのように調査するのか。
- ・コード体系をどのように定めるのか。
- ・データベース作成について、「どの程度の規模のものをどのような目的で行うのか。」という「目標」を、どのように定め、それをどのように達成させるのか。

等が話し合われ、その結果、本年度の調査研究方針は下記のとおりとなりました。

- ・データベース化の現状と、現有データベースシステムについての抽出調査の実施。
- ・調査結果の集計、分析。
- ・調査結果に基づいて、具体的なデータベース作成についての「目標」の決定と、実際のデータベース化の方法の策定。

次回は、9月13日(金)に行われ、調査方法について試案の作成と、データベース化に用いるコード体系の取り扱いなどについて話し合われる予定です。

### 委員会名簿

北九州市立自然史博物館	上田 恭一郎
神奈川県立生命の星・地球博物館	勝山 輝男
横須賀市自然博物館	林 公義
千葉県立中央博物館	宮田 昌彦
東北大学理学研究科・理学部	森 啓
国立科学博物館	松浦 啓一(座長)
国立科学博物館	北山 太樹
国立科学博物館	谷村 好洋
国立科学博物館	溝口 優司
国立科学博物館	米田 成一
国立科学博物館	飯田 和郎

## 全科協の2事業に文部省が補助金交付の内定

全科協では文部省に対し、平成8年度民間社会教育活動振興費補助金の申請をしていましたが、このたび、2事業について補助金交付の内定がありました。

1つは、昨年度に引き続き内定を受けたもので、「研究発表大会」の実施と企画展・共同企画展等の事例集の作成を主な内容とするものです。実施にあたっては、「共同企画展等調査研究委員会」において準備調査と方策研究を行い、その結果を研究発表大会に反映させていくこととしています。

もう1つは、新規事業の「科学系博物館における標本資料データベースの標準化に関する調査研究」に対して内定がありました。その目的は日本の生物、鉱物等に関する全国的なデータベースを構築するため、データベースの標準フォーマット作成に関する調査研究を行います。また、データベースに基づいてカタログを出版するための準備作業も併せて行います。

## —世界科学館会議—

### 第1回世界科学館会議について

世界科学館会議とはヨーロッパの ECSITE (European Collaborative for Science, Industry and Technology Exhibition: ヨーロッパ科学・産業・技術博物館協会) とアメリカの ASTC (Association of Science-Technology Centers: アメリカ科学館協会) が提唱者となり、世界の科学館等のネットワーク化、活性化及び相互の情報交換等を目指して行なわれたもので、その第1回会議がフィンランド科学センター Heureka において平成8年6月13日～17日に開催されました。日本からは10名が参加し、国立科学博物館から2名、科学技術館から1名、日本科学技術情報センター (JICST) から1名等が出席しました。

会議の開催中に数十の研究集会があり、その中で討議された主な内容は下記のとおりです。

- ・先進国では青少年の理科離れ問題が深刻になっていること、一方、発展途上国では学校教育を補完するイン・フォーマル教育の一環として科学館が重要視されていること。
- ・展示や教育普及活動において安易にコンピューター等に頼るのは危険であり、あくまでも実物資料の存

在が重要であること。しかし一方、情報化は時代の流れであり積極的に取り組む必要があること。

- ・展示手法において芸術的要素も十分取り入れ、児童生徒に興味・関心を持たせる必要があること。
- ・今後の国際協力の強化が必要であること。

### アジア太平洋地域会議について

また、第1回世界科学館会議では各地域ごとに会合が行なわれ、日本はアジア太平洋地域会議に参加しました。

この地域会議には約12カ国から約30人が出席し、アジア太平洋地域科学館協会の新規設立の可能性について議論がなされました。日本からは、国立科学博物館の飯田普及部長が日本の科学系博物館の現状や全科協についての紹介を行い、協会の発足後は全科協が国際的な対応の窓口となる可能性について述べました。

協議の結果、オーストラリア・シンガポール・インドネシア・マレーシアの4カ国が協会設立の中心的役割を担い、規約案を作成し、来年中国かインドネシアで第1回アジア太平洋地域科学館協会の会合が開催される予定となりました。

## —加盟館の企画展・特別展の案内—

### <埼玉県立自然史博物館>

#### 企画展示「比企の植物」

埼玉県立自然史博物館では、企画展示「比企の植物」を平成8年9月14日(土)～12月26日(木)の間、2階展示ホールにおいて開催します。

この展示は、埼玉県の比企地方に生息する植物を展示するもので、埼玉大学教育学部の安田教授を中心に採集され、平成5年に当館に寄贈されたものです。県内各地方と比企地方との共通種を紹介して、比企地方のフロラ成立の要因を解説します。また、分布の限られる帰化植物や、絶滅のおそれのある植物についてもあわせて紹介しています。

—記—

期 間	9月14日(土)～12月26日(木)	
会 場	埼玉県立自然史博物館 2階展示ホール	
休 館 日	月曜日休館(休日を除く)	
入 館 料	一般	100円
	大学生・高校生	50円

本件に関するお問い合わせ先

埼玉県立自然史博物館 企画課 TEL 0494-66-0404

## &lt;TEPIA (機械産業記念館)&gt;

## 第9回展示『航空機産業技術展』開催

TEPIAでは、12月13日(金)まで第9回展示として『航空機産業技術展』メインエグジビション“WINGS TO THE FUTURE～未来を拓く航空機技術～”を開催しています。この展示は、去る6月15日、ご好評のもと終了したプレエグジビション“大地への夢と挑戦”の閉幕を受けて開催しているメインエグジビションです。

航空機産業の先進性と将来性について、特に若年層の理解を深め、将来の人材育成を図り、日本の航空機産業を振興させることなどを目的にしています。

—記—

期 間 7月12日(金)～12月13日(金)  
 会 場 TEPIA (機械産業記念館) 1階テーマ展示室  
 所 在 地 港区北青山2-8-44 (地下鉄銀座線「外苑前」駅下車、神宮球場隣接)  
 内 容 ボーイング777や救難用飛行艇 US-1A、自衛隊航空機などの航空機の模型や、本物さながらの航空機とヘリコプターの操縦感覚を体験できるシミュレータ、またインターネットコーナーも設置しています。  
 開館時間 月～金曜日 10:00～18:00  
 土曜・祝日 10:00～17:00  
 日曜日休館  
 入館料 無料

本件に関するお問い合わせ先

TEPIA 展示事務局 TEL 03-5474-4967



ヘリコプターシミュレーター

## &lt;国立科学博物館&gt;

## 「ピテカントロプス展」

いま復活するジャワ原人 日本人の源流をさぐる

この秋、国立科学博物館では、「ピテカントロプス展」を開催します。インドネシアで発見された約100万年から60万年前の原人化石を中心に、同時代の動物化石や石器類などで構成します。中でも、最も注目されるのは、「ピテカントロプス8号化石」。インドネシア・サンギランで1969年に発見され、顔面が残っていたため顔の復元が可能となった貴重な化石です。インドネシア国内でも公開されておらず、文字通り世界初公開となります。

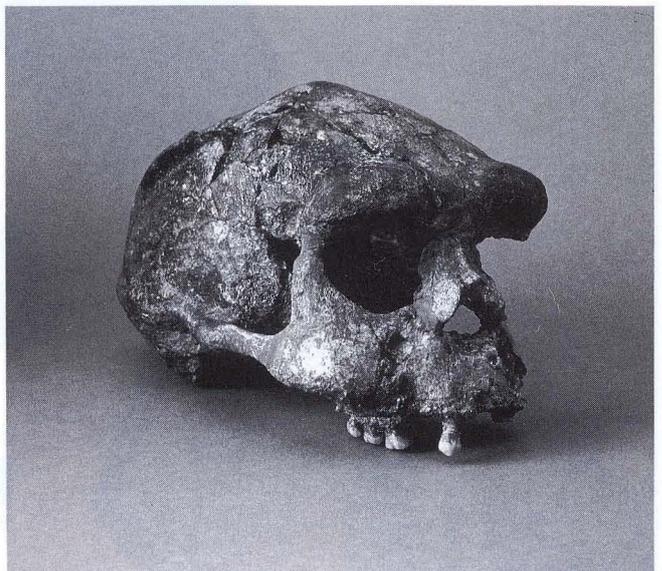
会場では、映像による頭骨化石からの顔面復元の手順の説明など、ピテカントロプスとその時代が、わかりやすく理解できるように構成されています。

—記—

期 間 9月7日(土)～11月24日(日)  
 会 場 国立科学博物館 (東京・上野公園)  
 休館日 月曜日休館(ただし9月16、23日、11月4日は開館、翌日が休館)  
 開館時間 9:00～16:30(入館は16時まで)  
 入館料 一般・大学生 1300円  
 小・中・高校生 600円  
 主 催 国立科学博物館、読売新聞社

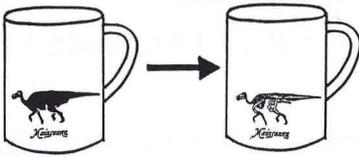
本件に関するお問い合わせ先

国立科学博物館 普及課 TEL 03-3822-0111



ピテカントロプス8号化石

**恐竜マグ**



あたたかい飲みものを入れると  
骨格図にかわります!!

株式会社 アンティー

TEL 03-3467-6555  
FAX 03-3467-6568

\* ミュージアム・ショップグッズの企画・製作・販売 (マグカップ、Tシャツetc.)  
\* 特設売店の代行

〒151 渋谷区富ヶ谷1-17-9  
パークハイム302

INTERIOR / EXTERIOR / DESIGN / EQUIPMENT  
**ONY KOBORO CO., LTD.**

東京都千代田区神田神保町2-40-5 東久ビル  
TEL (03) 3221-1102(代) FAX (03) 3221-1185



動物園 / 水族館 / 博物館  
企画・設計・施工

**Practical Specimens for Study of Earth Science**

地学標本(化石・鉱物・岩石)  
古生物関係模型(レプリカ)  
岩石薄片製作(材料提供による薄片製作も受け賜ります。)

大英博物館 / 恐竜復元模型  
縮尺: 実物の40分の1 精密教育用モデル、大英博物館製作による刻印入

**TEL 03-3350-6725**  
上京時にはお気軽にお立ち寄り下さい。

(特に化石関係は諸外国より良質標本を多数直輸入し、力を入れておりますので教材に博物館展示等にぜひご利用ください。)

Fossils, Minerals & Rocks  
株式会社 **東京サイエンス** 本社 〒150 渋谷区千駄ヶ谷5-8-2 イオアナックスビル  
TEL 03-3350-6725 FAX 03-3350-6745  
ショールーム 紀伊國屋書店新宿本店1F TEL 03-3354-9433

**TOKYO SCIENCE CO., LTD.**

「全科協ニュース」を皆様の情報交換の場としてご活用ください。資料や情報の提供、標本などの借用希望、事業案内、ご意見、ご提案など皆様の原稿をお待ちしております。

編集後記

7月号の編集は、多摩六都科学館が担当しました。今回は、栃木県立博物館です。ご期待ください。

**感じる科学**

▲ 人体型ロボット  
コスモ博士(岩崎科学技術館)

▲ 恐竜ロボット  
ティラノサウルス

文化施設・商業施設・ディスプレイ企画・設計・施工

**kokoro** 株式会社ココロ

〒205 東京都羽村市神明台4丁目9番1号  
TEL 0425(30) 3911(代)・3939(営業)  
FAX 0425(30) 3900・3927(営業)

